

第12講 キューバ危機

キューバ危機の背景

東西冷戦の対立

- ウォルター・リップマンの命名
- アメリカを中心とする自由主義陣営
- ソ連を中心とする社会主義陣営
- ベルリン危機（1961年7月）

キューバ革命

- 1959年 カストロの革命政権成立
- 社会主義化の推進と米系企業資産の国有化
- アメリカの断交と禁輸

反カストロ政策

- 亡命キューバ人の組織化
- キューバ国内での破壊活動
- カストロ暗殺計画
- 米州機構から排除
- 経済制裁

ケネディー政権の成立

- 1961年 ピッグス湾事件：亡命キューバ人の上陸・失敗
- ウィーン会談：フルシチョフとケネディー
- 1962年 マングース作戦：CIAによるキューバ国内での破壊活動
- ORTSAC 演習の実施：キューバに圧力

ソ連の軍事援助

- 1962年 キューバへの核ミサイル搬入を計画
- キューバ防衛への協力と米ソ核戦力の均衡化（トルコにおけるアメリカのミサイルとの相殺）
- アナディル作戦の実施

ケネディー政権の対応

- ソ連による軍事援助強化の察知
- キューバでの状況変化に対するアメリカ国内の批判の高まり
- 9月評価：キューバにおいて差し迫った脅威を否定

ミサイル配備の発見

- 10月14日 U2型機による偵察
- CIAによる分析：中距離ミサイル基地の建設を確認
- 10月15日 ホワイトハウスに報告
- バンディ特別補佐官、大統領への報告を翌日に延ばす

キューバ危機

ExCOM (国家安全保障会議緊急執行委員会)

第1日 10月16日 召集

大統領 ジョン・F・ケネディー
副大統領 リンドン・ジョンソン
大統領特別補佐官 クリス・オドネル
大統領特別補佐官 マクジョージ・バンディー
大統領特別顧問 セオドア・ソレンソン
司法長官 ロバート・F・ケネディー
CIA長官 ジョーン・マコーン
統合参謀本部長 マックスウェル・テイラー
国務次官 ジョージ・ポール
国務次官補 ポール・ニッツ
国務次官代理 アレクシス・ジョンソン
国防長官 ロバート・マクナマラ
国防副長官 ロズウェル・ギルパトリック
国務長官 ディーン・ラスク
財務長官 ダグラス・ディロン
国務省顧問 リュウェリン・トンプソン

空爆案の検討

第2日 10月17日

ケネディーは中間選挙遊説に出発
海上封鎖案の浮上
外交交渉案の提案：スチーブンソン国連大使（イタリアとトルコのみ사일と交換）

第3日 10月18日

グロムイコソ連外相の訪問
双方とも核ミ사일問題に触れず
ラベットの助言：海上封鎖案を支持
空爆派と海上封鎖派の対立

第4日 10月19日

ケネディーは中間選挙遊説に飛ぶ
ExCOM 内部での激論

第5日 10月20日

統合参謀本部のシミュレーション結果の報告
空爆の問題点：完全に破壊できず、報復攻撃の可能性
海上封鎖の決定

第6日 10月21日

封鎖ではなく臨検という言葉を検討・採択

第7日 10月22日 ケネディーのテレビ演説：キューバ危機の始まり

フルシチョフ、緊急幹部会招集

第8日 10月23日 キューバ、最高警戒態勢発令

在キューバソ連軍、戦闘態勢に入る

第10日 10月25日 国連安全保障理事会：スチーブンソン米国連大使とゾーリンソ連
国連大使

NATO軍、最高警戒態勢に入る

マルキュラ号、封鎖水域に入る・臨検命令

第11日 10月26日

空爆論の巻き返し

キューバでのミサイル基地に核弾頭搬入

フルシチョフ、核ミサイル発射提案を拒否

ワルシャワ条約機構、臨戦態勢に入る

ケネディー宛て「フルシチョフ書簡」：ミサイルの搬入停止を約束

第12日 10月27日

モスクワ放送：トルコのミサイル撤去と交換

キューバ上空でU2型機撃墜

NATOのU2型機、ソ連領に迷い込む→迎撃

フルシチョフ、在キューバソ連軍司令官に攻撃禁止

ロバート・ケネディー司法長官とドブレイニン駐米大使との会談

ドブレイニン、モスクワに打電

第13日 10月28日

ワシントンのソ連大使館から誤報

ケネディーが開戦を決意と受け取られる

フルシチョフの緊急放送：ミサイルの撤去を声明

結果

キューバからのミサイル撤去とトルコからのミサイル撤去

緊張緩和と米ソのよる武器管理

1963年 ホットライン協定

部分的核実験禁止条約

教訓

組織の論理と惰性

相互信頼の醸成の必要